

国際ランド&ディベロップメント、東京大学のTAO計画に参画

グリーン・コミュニティの実現を目指す日本アジアグループ傘下の国際ランド&ディベロップメント株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:金丸 直幹、以下「国際L&D」)は、東京大学理学系研究科天文学教育研究センターが南米チリ共和国で進めているTAO(The University of Tokyo Atacama Observatory)計画において、現地調査・コンサルティングから天文台望遠鏡ドームのプラットフォーム設計及び研究棟の工事監理業務を受託し、業務を推進しております。

TAO計画とは、東京大学がチリ共和国第二州アタカマ・チャナントール山山頂(標高約5,640m)に主として口径6.5m大型光学赤外線望遠鏡を備えた天文台を設置して、日本及びチリの研究者に観測環境を提供するものです。現在すでに研究棟の建設が進められており、本年8月に竣工を予定しております。

国際L&Dは、天文施設の設計・工事監理のノウハウと海外事業におけるプロジェクトマネジメント能力を活用するとともに、同国の法律や慣習等を十分に理解し、特異な気象条件を設計に反映。現地での関係者との綿密な調整を行いながら、本業務を実施しております。

■ 受託業務の概要

受託業務1	東京大学アタカマ天文台望遠鏡ドームプラットフォーム設計業務
所在地	チリ共和国第二州アタカマ・チャナントール山山頂
標高	約5,640m
敷地面積	約16,900㎡
延床面積	約1,800㎡
階数・構造	地上2建て・鉄骨造、一部コンクリート造予定

受託業務2	東京大学(チリ・アタカマ)理学部天文学教育研究センター研究棟工事監理業務
所在地	チリ共和国第二州サンペドロ・アタカマ市内
敷地面積	約14,700㎡
延床面積	約554㎡
階数・構造	平屋建て・鉄筋コンクリート造、一部ブロック造
竣工予定	2014年8月

■ 計画地の特徴

天文台の建設地であるチリ共和国のアタカマ地域はアンデス山脈にあり、高度は5,000mを超えます。その中のチャナントール山(標高約5,640m)山頂は気圧が0.5気圧を下回り、湿度は大変低く晴天率も高い、天文台には最適な土地です。口径1mの望遠鏡はすでに設置され、アタカマ天文台は「世界最高地点の天文台」として、2011年5月にギネスに認定されています。



2014年8月竣工予定の「天文教育センター研究棟」完成予想図

【国際ランド&ディベロップメント株式会社について】 <http://www.kld.co.jp/>

国際ランド&ディベロップメント株式会社は、その前身である国際航業株式会社の不動産事業部門として 1947年の創業以来、67年間にわたり不動産の開発・運営管理、環境対策、住宅供給などの事業を国内外で実施してきました。

近年は、従来の不動産サービスに加え、再生可能エネルギーの活用、省エネ・蓄エネといったエネルギーソリューションサービスを提供し、低炭素社会の実現に向けた総合的な取組みを「グリーンプロパティ」と定義しサービスを拡大しています。

特に再生可能エネルギー活用分野においては、太陽光発電システム導入のシステムインテグレーターとして、オーナーや事業主の立場にたった総括的な視点から、設計・調達・工事（EPC）・運営管理（O&M）の業務をワンストップで提供しています。

【名 称】 国際ランド&ディベロップメント株式会社

【本社所在地】 〒102-0085 東京都千代田区六番町2番地

【資本金】 1億円

【業 務 内 容】 不動産開発・賃貸、不動産・建設コンサルティング・設計・工事
アセットマネジメント・プロパティマネジメント
太陽光発電の導入支援・EPC・O&M、エネルギーソリューション

【事業に関するお問い合わせ先】

国際ランド&ディベロップメント株式会社 企画部 TEL 03-3262-6091 URL : <http://www.kld.co.jp/>